

## 1 2013年度の研究内容

- ① 紀要原稿の執筆のために落語「居残り佐平次」の周辺調査をおこなう。
- ② 2014年度の単行本出版をめざした論文の執筆。
- ③ 京都芸術センターでの古典芸能をめぐるさまざまな公演やシンポジウムなどに向けての準備（とくに上方舞山村流と日本舞踊若柳流の身体論的比較研究）。
- ④ コンソーシアム公開講座の準備を含めた落語批評の可能性についての研究。
- ⑤ 純邦楽ならびに日本舞踊の地方（伴奏音楽）のアーカイブの研究。

## 2 2013年度の研究成果

- ① 「情報科学芸術大学院大学紀要」第5号に「落語の身体論（3）『居残り佐平次』、あるいは時代の宿痾について」を執筆。
- ② 現在も引き続き執筆中。
- ③ 京都芸術センターにおける「五感で感じる和の文化事業」の一事業として「伝統芸能みくらべ」公演を行なった。  
2014年3月20日「能とコンテンポラリーダンスをみくらべる」  
2014年3月21日「寄席と色物をみくらべる」  
2014年3月23日「舞と踊りをみくらべる」  
<http://www.kac.or.jp/events/10426/>
- ④ 岐阜大学サテライトキャンパスにて「『笑い』の世界Ⅱ～笑いを分析する」を全15回開催し、落語を含んだ笑い全般の批評の可能性について講演をおこなった。  
[http://www.gifu-uc.jp/kouza/2013/kouza2013\\_01.html](http://www.gifu-uc.jp/kouza/2013/kouza2013_01.html)
- ⑤ 「上方芸能」第190号（2013年12月）に「邦楽と純邦楽に区別された日」を、同「上方芸能」第192号（2014年5月）に「日本人の身体は変わったか——日本舞踊の身体論」を執筆した。

## 3 これからの研究方向

- ① 2014年度も「紀要」第6号への執筆を予定している（扱う演目は未定だが「鼠穴」か「帯久」を予定している）。
- ② 今年度中に『現代落語学概論』（仮題）の上梓を計画している。
- ③ 2015年3月に京都芸術センターでの舞台公演（脚色を担当）を予定している。
- ④ 2014年度もコンソーシアム公開講座「『笑い』の世界Ⅲ～そして落語へ～」を継続しておこなっている。  
[http://www.gifu-uc.jp/kouza/2014/kouza2014\\_01.html](http://www.gifu-uc.jp/kouza/2014/kouza2014_01.html)